

○後藤守議長 次，3番赤堀平二郎議員の発言を許します。

〔3番 赤堀平二郎議員 登壇〕

○3番（赤堀平二郎議員） 民主党の赤堀平二郎でございます。私は今回，前回の質問と絡める形で2点，それから，その他に教育問題について1点，この3点の項目についてお伺いしたいと思います。

まず最初に，前回の一般質問でもお伺いいたしましたところの市民，住民の皆さんにとって大変重大な関心事となっております幸久橋の件につきましてお伺いいたします。

2月中に通行の可否を決定するとのことでありましたが，いかが結論に相なりましたでしょうか。お聞かせいただきたいと思います。幸久橋に関しましては，第一義的には県の管理となっているわけですが，当市といたしましてはどのような方向にこの問題をもってまいりたいのか，その考え方もあわせてお伺いしたいと思います。そして今後どのように取り組んでいくのかもお示し願いたいと思います。

2番目，教育問題についてお尋ね申し上げます。

過日，文部科学省が学力テストの成績公表を解禁したように聞いておりますけれども，当市におきましてはどのようになされるのかお聞かせ願いたいと思います。また公表するならば，どの程度の内容を考えておられるのかお教えいただきたいと思います。

3番目に，前回質問をさせていただきました災害対策についてお伺いいたします。

ご存じのように，過日の2月8日，首都東京を含めた関東甲信越に至る大雪の影響，集落の孤立，長い区間，長い期間にわたっての車両等の立往生等の被害が多数発生いたしました。当市におきましては，地区により大量の雪が降り，かなりの積雪があったに聞き及んでおります。そのため地区によっては複数日にわたり外部との交通が遮断され，孤立状態に陥った住民の方もいるとの話でございますけれども，当市における被害状況をお聞かせ願いたい。また，どのような対処，対策を行ったかもお教えいただきたいと思います。

もう一つ，これも災害対策関係ではございますが，私も以前何度か一般質問で触れてまいりました地域の皆さんにとって長年の懸案である渋江川，里川合流地点周辺での冠水対策。現在国の直轄事業として工事が進んでおるわけでございますけれども，滞留水をどのような構造で里川のほうに排水してまいるのか，毎度どれぐらいの量が排水されるのかお聞かせいただきたいと思っております。

以上3項目，1回目の質問を終了いたします。ご答弁のほどよろしくお願いたします。

○後藤守議長 答弁を求めます。建設部長。

〔鈴木典夫建設部長 登壇〕

○鈴木典夫建設部長 道路環境の整備について，通行どめ中の幸久橋について，調査結果及び今後の見通しについてでございますが，現在県では，幸久橋の安全性の確認につきましては，国の研究機関のアドバイスも受けながら橋の安全性の確認のために必要な調査を終え，それをもとに今後の対策について検討を進めている状況であります。したがって，調査結果及び今後の見通しにつきましては，現時点では申し上げられない状況でございます。

次に、本市の要望、考えについてでございます。国道349号建設促進期成同盟会では、那珂市から常陸太田市瑞竜町までの幸久大橋を含む4車線化工事の整備を毎年国・県に対して強く要望しております。さらに、幸久橋が昨年10月から全面通行どめとなりましたことから、今年1月24日には、知事と県土木部長に対し、国道349号幸久大橋4車線化整備を求める緊急要望を実施してまいりました。

本市としましては、昨年秋から一部4車線化工事が県により進められておりますが、県北地域の主要幹線の強化を図り、常陸太田市のさらなる発展をするための基盤となる幸久大橋の4車線化整備を含めた水戸から常陸太田市の全区間4車線化整備の早期完成を働きかけていく考えでございます。通行どめ中の幸久橋の動向はこれからですから、今後2次的なものとして国道、県道、市道を含む市南部地域の道路ネットワーク整備手法について県と協議を重ねていく必要があると考えております。

続きまして、3、安全・安心なまちづくりの災害対策で、渋江川・里川合流地点の強制排水ポンプ施設についてでございます。

渋江川は、大雨等による里川の増水時に逆流を防ぐためゲートを閉じることになっています。そのため内水排除ができなくなり滞水してしまうため、対策として国が平成25年度より排水ポンプにより里川へ排水する施設を設置する整備工事を実施中であります。

質問の滞留水をどのような構造で里川側に排水するかについてでございますが、渋江川からの滞留水を取り込む吸水槽を設け排水ポンプにより圧送し、里川の堤防天端を圧送管で横断し、里川に排水する構造となっております。

次の質問の毎時どれぐらいの量が排水されるのかでございますが、毎秒約1立方メートルの排水能力で計画されておりますので、毎時間にしますと約3,600立方メートルの排水量となります。その上今回の工事では、滞留水が多い場合も想定して里川の堤防の一部を広げ、緊急時に排水ポンプ車が導入できるよう設置スペースを確保する堤防天端拡幅工事が含まれております。

○後藤守議長 教育長。

〔中原一博教育長 登壇〕

○中原一博教育長 学力テストに関するご質問にお答えいたします。

全国学力学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的に平成19年度から実施されているものでございます。

調査結果の扱いにつきましては、昨年11月に全国学力学習状況調査に関する実施要領が一部変更され、市町村教育委員会による個々の学校名を明らかにした調査結果の公表が可能となりましたが、本市といたしましては、本調査は対象となる学年や実施教科が限定されていること、測定できるのは学力の一部分であること、平均正答率を並べるだけの調査結果の公表は学校間の序列化や過度な競争につながることから、個々の学校名を明らかにした調査結果の公表はこれまでどおりいたしません。市としましては、市全体のよい点や課題等について示してまいりたいと考えております。

さらに、各学校に対しましては市全体の傾向と指導上の改善点として、結果から見た学力や学習状況のよさや課題、その解決を図るための授業改善の視点を示しながら、各学校が児童生徒一人ひとりのよさやつまずきを把握して、きめ細かな支援ができるよう今後とも努めてまいります。

○後藤守議長 総務部長兼政策企画部長。

〔佐藤啓総務部長兼政策企画部長 登壇〕

○佐藤啓総務部長兼政策企画部長 安全・安心なまちづくり、災害対策についてのご質問の中で、2月8日の大雪による被害状況及び今後の対策と方針についてのご質問にお答えをいたします。

被害の状況でございますが、道路の通行どめ、農業用ハウスの倒壊や果樹被害等及び停電が発生しております。

道路の通行どめにつきましては、国道461号、県道は十王里美線、日立常陸太田線、日立山方線と、これらの国・県道と接続する市道でございます。なお、国道461号は2月13日に、県道及び市道につきましては、2月19日までに通行どめが解除されているところでございます。

農作物等の被害につきましては、増井町及び瑞竜町を中心にブドウハウス、野菜用ハウス等の全壊が6棟、半壊が2棟、中破1棟——中規模の破れということですので——及び小破2棟。また、ブドウハウスの倒壊による枝折れ等、果樹の樹体被害も40アールが確認されておりますので、調査の上、県に報告をいたしました。

また、停電につきましては、8日23時ごろより発生し、9日には最大で4,000件の停電となっております。全面復旧は10日の夜となっております。

次に、これらの被害への対応でございますが、総務部及び建設部の職員が8日の午前3時より庁内に待機いたしまして、情報の収集や関係機関との連絡調整を行い、道路の通行どめ及び停電の状況につきましては、防災行政無線、ホームページ、フェイスブック、ツイッターにより広報を行い、また、通行どめの市道につきましては、除雪作業を行ってまいったところでございます。

今後も降雪に対しましては、今回と同様に市民の皆様への迅速な情報提供と迅速な除雪等に努めてまいりたいと考えております。

○後藤守議長 赤堀議員。

〔3番 赤堀平二郎議員 質問者席へ〕

○3番（赤堀平二郎議員） ご答弁ありがとうございました。3と道路環境の問題、すなわち幸久橋の件でございますが、再度申し上げますけれども、これは第一義的には県の管理となっているわけでございます。当市の考え方として349号の4車線化を推進させる、それから、幸久大橋の4車線化も進めるということでございますけれども、ちょっと踏み込んで今の段階では言えないという答弁になるかもしれませんが、幸久橋を再度利用するという考え方はお持ちなのかどうなのかをお聞きしたいと思います。

○後藤守議長 答弁を求めます。建設部長。

○鈴木典夫建設部長 ただいま答弁しましたとおり、県が安全性の検討をしている状況でございます。橋について存続できるのかできないのかということに対しては、市として残すとか残さないとかというような形でのご答弁は差し控えさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願

いたします。

○後藤守議長 赤堀議員。

○3番（赤堀平二郎議員） わかりました。さっき言いましたように常陸太田ができるわけではございませんので、意向としてはどうなのかということ聞いたまででございます。県が第一義的にやっているわけですが、当常陸太田には地元選出の県会議員さんもございます。ぜひ県会議員さんとも連携を緊密にとっていただいて、常陸太田の住民並びに市民の皆さんの意向に沿うような対処をやっていただきたいと思いますと考えております。

それと教育問題についてお伺いいたしましたところ、個別学校名については公表しないと。非常に結構なことだと思います。私の考え方として教育の原点というのは、それぞれのお子さんが持っている未来への可能性を信じてその可能性を引き出す機会を与えることだと考えております。子どもたちの持つ可能性は多様であり、一律の価値基準で図られるものではないと考えております。その点については教育長も今そのように述べていただいたわけでございます。子どもたちは早い人もいるし遅い人もいる、時間的に区切って1つの価値基準でさあどうだという形は私は余り感心しないわけでございます。

私たちの社会は常に多様な資質と才能を求めておりまして、多様な価値観と存在を認め合う社会であると考えております。一定のルールの下で子どもたちを競わせる競技会のような様相を呈するものになってはいけないと考えるわけでございます。子どもたちにとっても社会にとっても1つの価値基準で全てを決めてしまうのは極めて危険であるし不幸なことであると思いますので、どうぞ教育長、今後とも子どもたち本位の教育現場であるように、ぜひともご努力願いたいと思うわけでございます。

災害に対する問題でございますけれども、この前伊豆大島の避難指示、避難勧告について私、ちょっと触れさせていただきましたけれども、災害に対しましては、施設とかは当然大事ですけれども、まずもって避難、指示、勧告、そして住民、市民の皆さんも自主防災組織等を通して、まず身の安全を確保するという観点、意識を持ってもらうために、そういうことを意識的に進めたいと思うわけでございます。

渋江川と里川の強制排水ポンプ施設でございますけれども、私の記憶では二度ほど峰山中が水没——校舎は水没しておりませんが、グラウンドが水没したということでございます。これを機会に近隣周辺の田畑の冠水、そして峰山中学等のグラウンドの水没が解決されることを期待しているわけでございます。今後とも常陸太田におきましては、災害に対してはまず身の安全を図る、そのような意識づけを市民の皆様にも持っていただくように、キャンペーン等周知徹底していただければと考えております。

以上をもちまして、要望等を踏まえ一般質問を終了させていただきます。ありがとうございました。